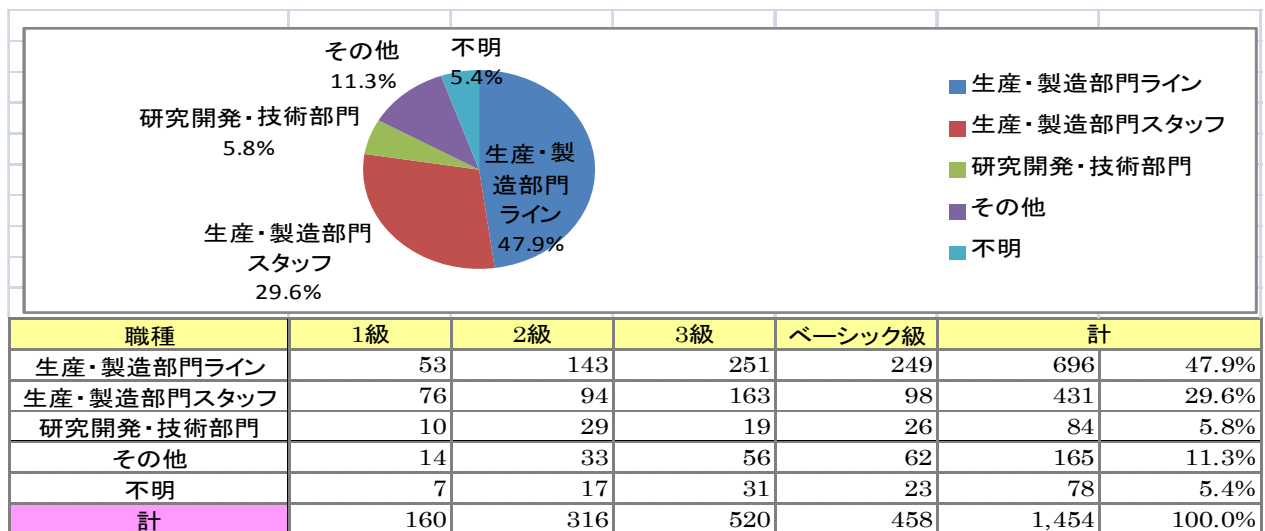


2. 職種別、階層別の特性

生産マイスター検定は、主に 1,040 万人の製造業を中心とした「ものづくり中核人材の育成」を目的として開発された検定であり、今回も例年と同様に、受検者の半数が生産・製造部門ラインとなっています。さらに、生産・製造部門スタッフと研究開発・技術部門の合計は全体の 1/3 以上を占めており、生産・製造部門ラインとあわせると、全体の 8 割以上となります。まさに全社一体となつての受検であり、企業での「共通言語」や「制度での受検」といった活用を強く感じることができます。

また、受検者の階層を見ると、「一般層」が受検者全体の半数以上を占めており、その多くが 3 級、またはベーシック級を受検しています。「グループリーダー層」は全体の 2 割で 2 級、または 3 級の受検が多く、「第一線監督者層」と「管理者層」はあわせて全体の 2 割で主に 1 級、または 2 級の受検となっており、小会の検定案内どおりの受検者層となっています。

●職種別の内訳<第9回検定>



●階層別の内訳<第9回検定>

